

# 現代日本語「はあ」の意味分析

渡邊 真

キーワード 「はあ」、応答詞、多義語、意味分析、メタファー

## 1. はじめに

現代日本語の「はあ」は、複数の意味を有する応答表現だと考えられる。

- (1) 話を聞いた純子は仰天して、「け、け、け、刑事さん？」と訊き返した。  
「はあ」と男は頭をかいて、「何しろ、尾行が下手なもので、いつも叱  
られとるんです」「失礼ですが——」「あ、警察手帳はこれです」本物  
らしい。<sup>1</sup> (赤川次郎『女社長に乾杯!』新潮 100)<sup>2</sup>
- (2) 「いまどこでどんな仕事をしているのですか?」というのが**ぼくが彼女**  
にまず一番に聞きたかったことだった。「まだ学生なんです。中国語を  
習っているんです。月、水、金とね。火、木、土はアルバイトです」「は  
あ。中国語ですか?」 (椎名誠『新橋烏森口青春篇』新潮 100)
- (3) 「明生さん」**恵介**は**明生**の目を見つめて切羽詰まったような声を出す。  
この人はやって来るなりずっと喋りっぱなしじゃないか、と明生は思う。  
「はあ」生返事をする。 (白石一文『ほかならぬ人へ』祥伝社)

(1)の「はあ」は、刑事だということを告げた直後に訊き返された「け、け、け、刑事さん?」という、肯定、否定の2つの選択肢がある質問に対する応答である。(2)の「はあ」は、「いまどこでどんな仕事をしているのですか?」という質問の答えである「まだ学生なんです。中国語を習っているんです。月、水、金とね。火、木、土はアルバイトです」という発話に対する応答である。(3)の「はあ」は、「明生さん」という呼びかけに対する応答である。

(1)の「はあ」は、「はい」と言い換えることができると思われるが、(2)と(3)の「はあ」は、「はい」と言い換えることはできない。また、(1)で「はい」と言った場合には、「はあ」とは少し異なる意味を示すと捉えられる。このように、「はあ」の実例を観察すると、「はあ」は複数の意味を有する応答表現であると

考えられる。

本稿では、現代日本語の「はあ」を複数の意味を有する応答表現として捉え、分析をおこない、複数の意味を記述し、共時的に意味の相互関係を考察する。

以下、本稿の構成について簡単に述べる。

2節では、先行研究の検討と本稿の目的を提示する。3節では、意味記述と分析の方法を述べる。4節では、「はあ」の5つの意味と意味の相互関係の分析を提示する。5節では、「はあ」の5つの意味記述を再掲し、意味の相互関係を図示する。6節では、簡単に本稿のまとめを述べる。

## 2. 先行研究の検討と本稿の目的

本節では、先行研究の検討を踏まえ、本稿の目的を示す。

国語辞典の『新明解国語辞典』（第七版）と『大辞林』（第三版）で「はあ」は、以下のように記述されている。

- 1 : ①受け答えることを表わす。「はあ、そうです」〔しり下がりと言う〕  
②納得のいった気持などを表わす。〔平らに言う〕
  - 2 : ①驚き・感心の気持を表わす。〔ゆっくりしり上がり〕  
②聞き返すことを表わす。〔急いだしり上がり〕
- （『新明解国語辞典』第七版）

- ①ややかしこまって応答するとき発する語。「はあ、承知しました」「はあ、そうです」
  - ②不審・疑問の意を表すときに発する語。「はあ、そうですか」
  - ③（尻上がりの調子で）問い返すときに発する語。「はあ、なんですって」
- （『大辞林』第三版）

まず、『新明解国語辞典』（第七版）の記述では、前節に挙げた(1)(2)(3)の「はあ」すべてが1の①の「受け答えることを表わす」という記述に該当することになるとと思われる。この場合、(1)(2)(3)の「はあ」のそれぞれの違いは、不明瞭なままとなる。加えて、1の①の「受け答えることを表わす」という記述は、そのまま「はい」の説明にもなり得ると思われ、「はあ」に固有の意味の記述としては不十分である。

次に、『大辞林』（第三版）の記述において、(1)の「はあ」は、①の「やや

かしくまって応答するとき発する語」で説明がなされ、(2)の「はあ」は、②の「不審・疑問の意を表すときに発する語」に関連するものとして説明ができるかもしれないが、(3)の「はあ」を説明する記述は見当たらない。加えて、①の「ややかしくまって応答するとき発する語」という記述は、そのまま「はい」の説明にもなり得ると思われ、「はあ」に固有の記述としては不十分である。

このような検討から、「はあ」が有する複数の意味について再考察する余地があると考えた。

また、奥津(1989)、森山(1989)、田窪・金水(1997)、富樫(2001)、仁田(2009)においても、「はあ」が有する複数の意味に注目した記述はなされていない。さらに、「はあ」の複数の意味の相互関係について考察した研究は、管見の限り見られない。

本稿では、現代日本語の「はあ」を、国広(1982:97)の「多義語」(polysemic word)とは、同一の音形に、意味的に何らかの関連を持つふたつ以上の意味が結び付いている語を言う」という定義に倣い、多義語として捉える。そして、収集した実例を分析し、複数の意味の精緻な記述を目指す。さらに、多義語分析の課題として、初山(2001:32)が提案している4つの課題の中の「(それぞれ確立した)複数の意味の認定」、「複数の意味の相互関係の明示」、という2つの課題に取り組む。<sup>3</sup>

ただし、本稿では、『新明解国語辞典』(第七版)の1の②の「納得のいった気持などを表わす。〔平らに言う〕」、2の①の「驚き・感心の気持を表わす。〔ゆっくりしり上がり〕」、2の②の「聞き返すことを表わす。〔急いだしり上がり〕」という記述や、『大辞林』(第三版)の③の「(尻上がりの調子で)問い返すときに発する語」という記述に該当する「はあ」については、同一の音形として扱うことを慎重に検討する必要があると考え、考察対象としていない。

### 3. 意味記述と分析の方法

本節では、記述と分析の方法を提示する。

本稿における、それぞれ確立した「はあ」の複数の意味、すなわち多義的別義の認定に関しては、まず、初山(1993:47)の「ここで、ある語に対して、M1,M2,M3……という複数の多義的別義を認める認定基準として提案するものは、M1,M2,M3……は、それぞれ関連語(非両立関係にある同位語、反義語、反対語、類義語、上位語)が異なり、さらには属する意味分野が異なる時、M1,M2,M3……を多義的別義と認定するという基準である」という指摘を参考

に、「はあ」が用いられる場面で「いいえ」が対立する場合があることや、「はい」と言い換えた場合と「え？」と言い換えた場合の違いなどに注目し、手掛かりとする。

また、複数の意味の相互関係の考察には、1節で取り挙げた(1)の「はあ」が示す意味を暫定的に基本的な意味とし、メタファーに基づき、説明する。

本稿で暫定的に基本的な意味とした(1)の「はあ」は、相手の「け、け、け、刑事さん？」という、肯定、否定の2つの選択肢がある質問に対する応答である。(1)で「はあ」ではなく「いいえ」と言った場合には、「刑事ではない」という否定判断を示すものと捉えられることから、(1)の「はあ」は、相手の肯定、否定という2つの選択肢がある質問に対して、否定ではなく肯定の選択肢を選択したのだという、肯定判断を示したものだと言える。加えて、(1)の「はあ」は、刑事でありながら尾行に失敗するという失態が招いた状況下で、仕方なく刑事という身分を相手に告げた直後に刑事であるか否かを問われるという場面で用いられていることから、肯定判断を示すことを心苦しく思い、ためらいながらも肯定判断を示したものだと考えられる。このように、「はあ」が、相手の質問に対して、(否定判断という)対立する選択肢との検討を経て示される意味を持つという点と、ためらいながらも示される意味を持つという点で、他の意味と類似性が見出せると考え、メタファーに基づき、複数の意味の相互関係を説明する。

メタファーの定義は、初山(2010:42)の「2つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて、本来は一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喻」に従う。

以上、本稿における記述と分析の方法を述べた。

## 4. 分析

本節では、現代日本語「はあ」の5つの多義的別義の記述と意味の相互関係の分析を提示する。なお、本稿では、考察対象である「はあ」の発話者を一貫して「主体」としている。

### 4. 1. 多義的別義1：〈相手の肯定、否定という2つの選択肢がある質問に対して〉〈ためらいながらも〉〈肯定判断をかしこまって示す〉<sup>4</sup>

- (4) 話を聞いた純子は仰天して、「け、け、け、刑事さん？」と訊き返した。  
「はあ」と男は頭をかいて、「何しろ、尾行が下手なもので、いつも叱  
られとるんです。」「失礼ですが——」「あ、警察手帳はこれです」本物

らしい。

(= (1))

(4)の場面は、喫茶店である。純子は、ずっと自分の後をつけてきていた男に声をかけ、喫茶店で男の素性を尋ねたところ、刑事だと名乗られ、その男に「け、け、け、刑事さん？」と質問している。これは、男に対して、刑事であるか否かを問うている質問だと捉えられる。それに対して主体である男は「はあ」と言いながら頭をかいて、続けて「何しろ、尾行が下手なもので、いつも叱られとるんです」と言っている。

(4)で主体が刑事ではないという否定判断を示す場合には「いいえ」と言い、本当の身分を述べると思われる。また、主体が「はあ」と言いながら頭をかき、「何しろ、尾行が下手なもので、いつも叱られとるんです」と言っていることから、自身が尾行に失敗するという失態が招いた状況下で、刑事という身分を相手に明かしたものの、改めて、相手に「け、け、け、刑事さん？」という質問をされ、肯定判断を示すことを心苦しく思い、ためらっている様子が窺える。加えて、自身の(尾行に失敗するという)失態を踏まえ、肯定判断を示す際に、相手に悪い印象を与えないように、礼儀を欠かさず控えめな態度で示そうとしていると捉えられる。ここで、主体のためらいが窺えない場合、主体は「はい」と言うのではないかと考えられる。

このような分析から「はあ」の別義1として〈相手の肯定、否定という2つの選択肢がある質問に対して〉〈ためらいながらも〉〈肯定判断をかしこまって示す〉と記述する。

なお、本稿では、暫定的に別義1を基本的な意味と考える。

#### 4. 2. 多義的別義2：〈相手の好意的な申し出に対して〉〈ためらいながらも受け入れることを〉〈かしこまって示す〉

- (5) 野馬は改まったように言った。「実は先生を教頭に推薦したいと思っているが…」その言葉に猪熊は、「はあ…、しかし何十年も美峰教頭が教頭職を勤めているのではありませんか」と答えた。「それはそうですが、今年は先生を教頭に推薦したいと思っています…」野馬の言葉に、猪熊は、疑問をはさんだ。「しかし、それはできますでしょうか?」「いや、それはできるでしょう」野馬の自信ありげな答えに、猪熊は、「…しかし今まで長く教頭職を勤めた人をさしおいてですか?」不審な気持ちを隠せない。「いや、それはできると思いますよ」野馬は、さらにたたみかけるように言った。「はあ、それはありがたいのですが…。では、お願いいたします」と思わず転がり込んだ幸運を喜んだ猪熊は、

杯を重ねてますます酔いが廻った。

(小村剛史『あなたはどちら？尊敬される校長敬遠される校長』健友館：中納言)

(5)では、2つの「はあ」が観察される。ここでの考察対象は、相手の「いや、それはできると思いますよ」に対する、2つ目の「はあ」である。<sup>5</sup>

(5)の場面は、校長住宅である。校長である野馬に話がしたいと声をかけられた教員である猪熊は、野馬宅に向き、用意されていた酒を酌み交わしながら食事をしている。しばらくして、相手である校長は「実は先生を教頭に推薦したいと思っているが…」と言っている。これは、主体に向けられた好意的な申し出だと捉えられる。それに対して、主体は「はあ、しかし何十年も美峰教頭が教頭職を勤めているのではありませんか」と言っている。この「しかし何十年も美峰教頭が教頭職を勤めているのではありませんか」という発話は、相手の好意的な申し出が実現されるものだとは思えないという考えを基になされていると思われる。それに対して、相手は「いや、それはできるでしょう」と、主体を教頭に推薦することが実現可能だということを示しているが、それでも不審な気持ちを隠せない主体は、再び、「…しかし今まで長く教頭職を勤めた人をさしおいてですか？」と言っている。それに対して相手は「いや、それはできると思いますよ」と、再び、主体を教頭に推薦することが実現可能だということを示しているのだが、それに対して、主体が「はあ、それはありがたいのですが…。では、お願いいたします」と、言っていることから、主体は(相手の)「いや、それはできると思いますよ」という発話を、単に「(主体を)教頭に推薦することが実現可能であると思う」ことを示したものとしてではなく、先になされた「実は先生を教頭に推薦したいと思っているが…」と同様に「好意的な申し出」として捉え、それを受け入れることを示すものとして「はあ」を用いたと捉えられる。ここで、主体が受け入れないことを示す場合には、「いいえ」と言い、続けて「大変ありがたいのですが、私のような者に教頭職がととも務まるとは思えません」と言うなどするのではないかと思われる。また、主体が「はあ」と言った後に「それはありがたいです」ではなく、「それはありがたいのですが」と言っていることから、(相手の好意的な申し出に対して)受け入れることを示すことをためらっている様子が窺える。加えて、職場での立場を踏まえ、受け入れることを示す際に、相手に悪い印象を与えないように、礼儀を欠かさず控えめな態度で示そうとしていると捉えられる。

このような分析から、「はあ」の別義2として〈相手の好意的な申し出に対し〉〈ためらいながらも受け入れることを〉〈かしこまって示す〉と記述する。

別義2は、〈ためらいながらも〉という意味を含むという点で、別義1と共通する。さらに、主体が「いいえ」と言うことで、申し出を受け入れないことを示す可能性があることから、別義2の一部である、〈受け入れること〉は、〈受け入れないこと、という〉対立する選択肢との検討を経た意味だという点で、別義1の一部である〈肯定判断〉と類似性が見出せる。したがって、別義2は、別義1からメタファーを基盤に拡張した意味だと考えられる。

#### 4. 3. 多義的別義3：〈十分に想定していなかった〉〈相手の命令に対して〉〈ためらいながらも〉〈従う意思をかしこまって示す〉

- (6) 「誰に断ってここへ来た」中尾がいう。「ご挨拶やな。ちゃんと名前をいうて、受付を通したがな」桑原は胸の入館証を見せる。「紹介してもらおか。こちらの三人は初めてや」「断る。あんたに名乗るような、お歴々どちがうんや」「かまへん。教えたれ」白髪がいった。「はあ…」中尾は少し迷ったふうだったが、一肥った男を舟越建設の藤田、一赤ら顔をFKエステートの伏見、一白髪を神栄土砂の神田、と紹介した。

(黒川博行『疫病神』新潮社：中納言)

(6)の場面は、舟越建設の開発本部長である藤田雅規の部屋である。先客三名がいる藤田の部屋を二宮と共に訪問した桑原は、先客三名の中のひとりであり、唯一の顔見知りである中尾と少し会話を交わした後に、「紹介してもらおか。こちらの三人は初めてや」と言っている。それに対して中尾は、「断る。あんたに名乗るような、お歴々どちがうんや」と言っている。ここで、藤田と中尾のやり取りを聞いていた白髪の男（神田）が「かまへん。教えたれ」と言っている。これは、主体である中尾に対する命令だと捉えられる。それに対して主体は「はあ」と言っている。

(6)の「はあ」は、その後の「肥った男を舟越建設の藤田、一赤ら顔をFKエステートの伏見、一白髪を神栄土砂の神田、と紹介した」という記述から、主体が相手の命令に従う意思を示したものと捉えられる。ただし、その直前に、主体は「断る。あんたに名乗るような、お歴々どちがうんや」と言っている。これは、桑原に三名の紹介をする必要はないという判断を、他の三名もしているだろうという主体の考えの基になされたものと思われる。また、「はあ」と言った後に「中尾は少し迷ったふうだったが」という描写がなされていることから、主体が相手の「かまへん。教えたれ」という命令を十分に想定しておらず、それに従う意思を示すことについてためらいの気持ちがあると捉えられる。また、桑原に示した断りをひるがえしてまでも主体が相手の命令に従うと

いうことは、主体と相手との間に何らかの上下関係があると捉えられ、主体が従う意思を示す際に、相手に悪い印象を与えないように、礼儀を欠かさず控えめな態度で示そうとしていると考えられる。ここで、主体が相手の命令をある程度想定しており、ためらう気持ちを有していない場合には、主体は「はい」と言うのではないかと考えられる。また、相手の命令を、まったく想定していなかった場合には、主体は、想定外であることや驚きを「え？」<sup>6</sup>で示すと思われる。

このような分析から、「はあ」の別義3として〈十分に想定していなかった〉〈相手の命令に対して〉〈ためらいながらも〉〈従う意思をかしこまって示す〉と記述する。

別義3は、〈ためらいながらも〉という意味を含むという点で、別義1、別義2と共通する。加えて、別義3の一部である〈従う意思〉は、相手の命令に対して、従わない意思、という対立する選択肢との（主体の）検討を経た意味だという点で、別義1の一部である〈肯定判断〉と別義2の〈受け入れること〉と類似性が見出せる。さらに、別義3の一部である〈従う意思〉は、主体が相手の命令を受け入れることから生じる意味だと説明できることから、別義2の一部である〈受け入れること〉と、類似性が見出せる。つまり、別義3は、相手の発話が好意的な申し出ではなく命令であるという点と相手の発話を主体が十分に想定していなかったという点では別義2と異なるが、〈ためらいながらも〉という意味を含むという点、対立する選択肢との検討を経た意味だという点に加え、〈受け入れること〉という共通の概念を有する意味だという点で類似性が見出せるということである。

以上の考察から、別義3は、別義2からメタファーを基盤に拡張した意味だと考えられる。

#### 4. 4. 多義的別義4：〈十分に想定していなかった〉〈相手の発話に対して〉〈ためらいながらも〉〈把握したことをかしこまって示す〉

- (7) 「いまどこでどんな仕事をしているのですか？」というの**が**ぼく**が**彼女に**まず**一番に聞きたかったこと**だった**。「まだ学生なんです。中国語を習っているんです。月、水、金とね。火、木、土はアルバイトです。」「はあ。中国語ですか？」 (=2)

(7)は、電話での会話である。「ぼく」と「彼女」は、顔見知り程度の関係であり、「ぼく」は「彼女」に好意をもっていると思われる。そんな「ぼく」は、「彼女」に一番聞きたかった「いまどこでどんな仕事をしているのですか？」



という質問をしている。この質問は、相手が社会人であるという想定を基になされたものだと捉えられる。それに対して、相手である「彼女」は、「まだ学生なんです。中国語を習っているんです。月、水、金とね。火、木、土はアルバイトです」と言っている。それに対して、主体である「ぼく」は「はあ」と言い、続けて「中国語ですか?」と言っている。

(7)の「はあ」は、「え?」と言い換えることができる。この場合、(主体が)「彼女」が学生であり、中国語を習っていてアルバイトをしているということ、まったく想定していなかったと考えられる。ただし、「彼女」が学生だということや中国語を習っていてアルバイトをしているということが、非常に意外なことであったとしても、「え?」で露骨に驚きを示したり、「はあ」と言わないで「中国語ですか?」とだけ言うことは、よく知らない間柄であるのに、質問に答えてくれた相手に失礼な印象を与えられる。

このような分析から、「はあ」の別義4として〈十分に想定していなかった〉〈相手の発話に対して〉〈ためらいながらも〉〈把握したことをかきこまて示す〉と記述する。

別義4は、〈十分に想定していなかった〉相手の発話に対して〈ためらいながらも〉という意味を含むという点で、別義3と共通する。ただし、別義3の一部である〈従う意思〉は、相手の命令に対して、従わない意思、という対立する選択肢との(主体の)検討を経た意味である。一方で、別義4の一部である〈把握したこと〉は、対立する選択肢を有するとは考えられない。つまり、別義3と別義4は、別義3の一部である〈従う意思〉が、対立する選択肢との(主体の)検討を経た意味であるという点で別義4の一部である〈把握したこと〉とは異なるが、〈十分に想定していなかった〉相手の発話に対して〈ためらいながらも〉という意味を含むという点で類似性が見出せるということである。

以上の考察から、別義4は、別義3からメタファーを基盤に拡張した意味だと考えられる。

#### 4. 5. 多義的別義5 : 〈十分に想定していなかった〉〈相手の呼びかけに対して〉〈ためらいながらも〉〈自分に対するものだという認識をかきこまて示す〉

- (8) 「なずなのことはもう愛想がつきたんだろうね」(中略)「明生さん 恵介は明生の目を見つめて切羽詰まったような声を出す。この人はやって来るなりずっと喋りっぱなしじゃないか、と明生は思う。「はあ」生返事をする。「こんなこと俺の口から言えた筋合いじゃないのは重々承知だが、お願いだ、なずなを見棄てないでやってくんないか。(略)」

(白石一文『ほかならぬ人へ』祥伝社)

(8)は、恵介が、娘のなずなの夫である明生宅を突然訪問し、他の男の所へ行ってしまった娘の言動について謝罪し、娘が置いていった離婚届を提出せず、娘を見棄てないでやってほしいと嘆願している場面である。その談話の中で、相手である義父の恵介は「明生さん」と言っている。これは、明生に向けられた呼びかけだと捉えられる。それに対して主体である明生は、「はあ」と言っている。

(8)で主体は、相手が(主体の)夫婦間の現状を知っていることすら把握していないままに(相手の)突然の来訪を迎え入れていることから、この状況自体に戸惑いを抱いていると考えられる。加えて、明生宅には、恵介と明生しかおらず、「この人はやって来るなりずっと喋りっぱなしじゃないか、と明生は思う」とあるように、相手である恵介は、明生宅を訪れるなり、ずっと明生に向けて話していることがわかる。通常、2人しかいない場面で談話が途切れることなく継続している場合、主体は、相手に呼びかけられることを十分に想定していないと思われる。さらに、「はあ」と言った後に「生返事をする」という記述がなされていることから、主体が、返事をするをためらっている様子が窺える。ただし主体は、義理の息子という立場を踏まえ、返事をする際に、相手に悪い印象を与えないように、礼儀を欠かさず控えめな態度で返事をしようとすると考えられる。ここで、主体のためらいが窺えない場合、主体は「はい」と言うのではないかと考えられる。

このような分析から、「はあ」の別義5として〈十分に想定していなかった〉〈相手の呼びかけに対して〉〈ためらいながらも〉〈自分に対するものだという認識をかしこまって示す〉と記述する。

別義5は、〈十分に想定していなかった〉相手の発話に対して〈ためらいながらも〉という意味を含むという点で、別義3、別義4と共通する。

ただし、別義3の一部である〈従う意思〉は、相手の命令に対して、従わない意思、という対立する選択肢との(主体の)検討を経た意味である。一方で、別義4の一部である〈把握したこと〉は、対立する選択肢との(主体の)検討を経た意味ではない。つまり、別義5の一部である〈自分に対するものだという認識〉は、相手の呼びかけに対する意味だという点では別義4と異なるが、〈十分に想定していなかった〉相手の発話に対して〈ためらいながらも〉という意味を含むという点に加え、対立する選択肢との(主体の)検討を経た意味ではないという点で類似性が見出せるということである。

以上の考察から、別義5は、別義4からメタファーを基盤に拡張した意味だ

と考えられる。

## 5. まとめ

本節では、まず、現代日本語「はあ」の5つの多義的別義を再掲し、次に、意味の相互関係を図示する。

本稿で記述した現代日本語「はあ」の5つの多義的別義は、以下の通りである。

**多義的別義1**：〈相手の肯定、否定という2つの選択肢がある質問に対して〉〈ためらいながらも〉〈肯定判断をかしこまって示す〉

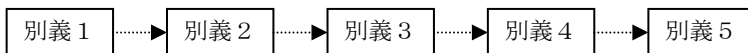
**多義的別義2**：〈相手の好意的な申し出に対して〉〈ためらいながらも受け入れることを〉〈かしこまって示す〉

**多義的別義3**：〈十分に想定していなかった〉〈相手の命令に対して〉〈ためらいながらも〉〈従う意思をかしこまって示す〉

**多義的別義4**：〈十分に想定していなかった〉〈相手の発話に対して〉〈ためらいながらも〉〈把握したことをかしこまって示す〉

**多義的別義5**：〈十分に想定していなかった〉〈相手の呼びかけに対して〉〈ためらいながらも〉〈自分に対するものだという認識をかしこまって示す〉

5つの意味の相互関係は、次の図の通りである。



.....▶ この矢印はメタファーを表す

## 6. おわりに

本稿では、現代日本語の「はあ」を多義語として捉え、収集した実例を分析し、「はあ」の多義的別義として5つの意味を認定し、記述した。さらに、「はあ」の5つの意味の相互関係を明らかにした。今後は、今回、考察対象としなかった「はあ」の検討や、「はあ」と「はい」の類義語分析をおこない、両者の意味の異なりを明らかにしたいと考えている。

## 注

- 1 例文中の下線は引用者によるものである。考察対象の「はあ」は実線で示し、「はあ」の前に存在する相手の発話は、荒い点線で示し、考察に関わる箇所と判断するものは波線で示す。また、「はあ」の後に続く同一人物の発話には細かい点線が施してある。
- 2 引用例の出典は、例文の後の（ ）内に示す。『CD-ROM 版 新潮文庫の100冊』を用いて採集した例文に関しては、書名を『 』で括り、その後に「新潮100」と略記してある。また、インターネット上で公開されているBCCWJから中納言を用いて採集した例文に関しては、書名を『 』で括り、発行所名を記載した後に「中納言」と記載してある。
- 3 本稿が残している課題は「プロトタイプの意味の認定」と「複数の意味すべてを統括するモデル・枠組みの解明」である。
- 4 個々の別義の意味、あるいは別義間における共通の意味は〈 〉で括って示す。
- 5 ひとつ目の「実は先生を教頭に推薦したいと思っているが…」に対する「はあ、しかし何十年も美峰教頭が教頭職を勤めているではありませんか」の「はあ」は、多義的別義4の〈十分に想定していなかった〉〈相手の発話に対して〉〈ためらいながらも〉〈把握したことを示す〉ものだと考える。
- 6 仁田(2009:290)は、「え？」について「相手がそのような発話を発したことに對して、「驚き」や「心外感」などの心的態度を感じ、それを表出したもの」だとしている。

## 参考文献

- 奥津敬一郎「応答詞『はい』と『いいえ』の機能」、『日本語学』8月、pp.4-14、明治書院、1989年。
- 国広哲弥『意味論の方法』、大修館書店、1982年。
- 田窪行則・金水敏「応答詞・感動詞の談話的機能」、音声文法研究会(編)『文法と音声』、pp.257-279、くろしお出版、1997年。
- 富樫純一「情報の獲得を示す談話標識について」、『筑波日本語研究』、第六号、pp.19-41、筑波大学文芸・言語研究科 日本語学研究室、2001年。
- 仁田義雄『日本語のモダリティとその周辺』、ひつじ書房、2009年。
- 松村明(編)『大辞林』、三省堂、2006年。

- 初山洋介「多義語分析の方法—多義的別義の認定をめぐる—」、『名古屋大学日本語・日本文化論集』1、pp.35-57、名古屋大学留学生センター、1993年。
- 初山洋介「多義語の複数の意味を統括するモデルと比喻」、山梨正明他（編）『認知言語学論考』No.1、pp.29-58、ひつじ書房、2001年。
- 初山洋介『認知言語学入門』、研究社、2010年。
- 森山卓郎「応答と談話管理システム」、『阪大日本語研究』1、pp.63-88、大阪大学文学部日本学科（言語系）、1989年。
- 山田忠雄、他（編）『新明解国語辞典』、三省堂、2012年。

### 例文出典

CD-ROM版『新潮文庫の100冊』

BCCWJ 中納言 (<https://chunagon.ninjal.ac.jp/login>)